授業科目の区分	専門基礎分野《人体の構造と機能・疾病の成り立ちと回復の促進》		
授業科目	解剖生理学総論		
開講年次・学期	1年次・前期		
単位（時間）	1（15）		
担当講師	①　《専任教員》看護師としての実務経験あり ②　《所属：倉敷中央病院　外科医師》		
科目のねらい	解剖学と生理学は、人体の「構造」と「機能」を学ぶ学問である。営まれるさまざまな生命現象により人体というバランスのとれたしくみをダイナミックに構築している。看護学の学習者においても、1つ1つの知識を単に増やすだけでなく、互いに関連付け統合して人体を理解することが求められる。「人間」の生命活動とはいかなるものか、なぜ私達は体のしくみを学ぶのか、主体的な学習を通して体のしくみを理解し、看護とのつながりを考えることを本科目の目的とする。		
授業計画	1 (2h)	「生活者としての人間のからだ」 私たち自身のからだはひとつの生命体としての活動を身体内部・外部で営んでいる。まずは自らの営みを意識してみることからはじめ、解剖生理学を学ぶことの意義について考える。	①
	2、3、4 (6h)	人体の構造と機能を学ぶために 1）人体の構造と機能について何を学ぶのか 2）人体をどのように学ぶのか 解剖生理学を学ぶための基礎知識 1）人体とはどのようなものなのか 2）人体の素材としての細胞・組織 ①細胞の構造　②細胞を構成する物質とエネルギーの生成　③細胞膜の構造と機能 ④細胞の増殖と染色体　⑤分化した細胞がつくる組織 3）構造と機能からみた人体 ①構造からみた人体　②機能からみた人体　③体液とホメオスタシス 4）体温とその調節	②
	5、6 (4h)	ミーティング 「食べる」「排泄する」を通じて体のしくみを理解する。 目標達成のための戦略考案 プレゼンテーションの準備	①
	7 (3h)	プレゼンテーション	
必携文献	1）坂井建雄：系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能［1］解剖生理学，医学書院，2018. 2）高橋長雄監修：新版からだの地図帳，講談社，2013.		
参考文献			
成績評価方法	①　は授業内で配布する別紙評価表を用いて評価する。 ②　は、終了後に試験を行う。 ①②はそれぞれ6割以上で合格とする。		
備考			

出席自己チェック欄 15h	① 9	2	4	6	8	9								
	② 6	2	4	6	試験 (1)									

授業科目の区分	専門基礎分野《人体の構造と機能・疾病の成り立ちと回復の促進》	
授業科目	解剖生理学・病態生理学と治療Ⅳ(内分泌・代謝・アレルギー・膠原病)	
開講年次・学期	１年次・後期	
単位（時間）	１（30）	
担当講師	①　《専任教員》看護師としての実務経験あり ②　《所属：倉敷中央病院　内分泌代謝・リウマチ内科医師》 ③　《所属：倉敷中央病院　内分泌代謝・リウマチ内科医師》 ④　《所属：倉敷中央病院　非常勤医師》 ⑤　《所属：倉敷中央病院　糖尿病内科医師》	
科目のねらい	【解剖生理学・病態生理学と治療のねらい】 看護の基礎となる生活を営む人間のからだの構造や機能を理解する。また、健康状態から逸脱するときにからだの異常や疾病の成り立ちについて、生体の反応として解剖生理と関連させ理解する。また、その根拠を基とし検査・治療の基礎知識を学ぶ。 【解剖生理学・病態生理学と治療】 内分泌・代謝・アレルギー・膠原病に関係する器官の構造・働きと、疾病に関する病態、治療、検査等について理解する。	
授業計画	１．内分泌器官の構造と機能	①
	２．疾患の病態・治療・検査 １）症状とその病態生理 ２）内分泌疾患の検査 ①ホルモン負荷試験 ②画像検査（甲状腺、副甲状腺、副腎） ３）疾患と治療 ①プロラクチン産生腫瘍　②成長ホルモン産生腫瘍　③ACTH 産生腫瘍　④下垂体機能低下症 ⑤尿崩症　⑥慢性甲状腺炎　⑦バセドウ病　⑧甲状腺機能低下症　⑨副甲状腺機能亢進症 ⑩副甲状腺機能低下症　⑪原発性アルドステロン症　⑫クッシング症候群 ⑬原発性副腎皮質機能低下症　⑭褐色細胞腫	②
	１．自己免疫疾患とその機序 ２．疾患の病態・治療・検査 １）症状とその病態生理 ２）治療 （１）薬物療法 ①ステロイド薬　②免疫抑制薬　③抗リウマチ薬 （２）疾患の理解 ①関節リウマチ　②全身性エリテマトーデス　③強皮症　④多発性筋炎および皮膚筋炎 ⑥　血管炎症候群	③
	１．免疫のしくみとアレルギーの機序 ２.病態・治療・検査 １）症状とその病態生理 ①薬物のアレルギー　②アナフィラキシー ２）治療 （１）薬物療法 ①抗アレルギー薬 （２）減感作療法	④

	1．代謝の概要と機能 2．疾患の病態・治療・検査 　1）症状とその病態生理 　2）代謝疾患の検査 　　①中間代謝産物とその異常　②糖尿病の診断治療に関連した負荷試験 　3）治療 　　①食事療法　②運動療法　③薬物療法 　4）疾患の理解 　　①糖尿病　②脂質異常症　③肥満症とメタボリックシンドローム　④尿酸代謝異常	⑤
必携文献	1）坂井建雄：系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能［1］解剖生理学，医学書院，2018.（①②③④⑤） 2）吉岡成人他：系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔6〕内分泌・代謝，医学書院，2019.（②⑤） 3）岩田健太郎他：系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔11〕アレルギー　膠原病　感染症，医学書院，2020.（③④） 4）渡辺照男編：カラーで学べる病理学第4版，ヌーヴェルヒロカワ，2019.（②③④⑤） 5）足立香代子他：系統看護学講座　別巻　栄養食事療法，医学書院，2020.（⑤）	
参考文献	1）田中越郎著：系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進［2］病態生理学，医学書院，2016. 2）高橋長雄監修：新版からだの地図帳，講談社，2013. 3）山口和克監修：新版病気の地図帳，講談社，2000. 4）日本糖尿病学会編：糖尿病食事療法のための食品交換表，文光堂，2013.	
成績評価方法	①　②，③，④⑤終了時に試験を行い、それぞれ6割以上を合格とする。	
備考		

出席自己チェック欄30h																
	①4	2	4			試験（1）										
	②8	2	4	6	8											
	③6	2	4	6	試験（1）											
	④4	2	4	試験（1）												
	⑤8	2	4	6	8	試験（1）										

授業科目の区分	専門基礎分野《健康支援と社会保障制度》
授業科目	社会福祉
開講年次・学期	2年次・前期
単位（時間）	2（40）
担当講師	①《所属：倉敷中央病院　医療福祉相談室　室長》 ②《副校長》看護師としての実務経験あり ③《旭川荘療育・医療センター児童院顧問》
科目のねらい	社会福祉の概念を学び、社会福祉と医療・社会保障の関連について理解する。また、旭川荘についての学びを通して障がいを持つ人々の生活と社会福祉サービスについての理解を深める。
授業計画	1．社会保障制度と社会福祉 1）社会保障制度　2）社会福祉の法制度 2．現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向 1）現代社会の変化　2）社会保障・社会福祉の動向 3．医療保障 1）医療保障制度の沿革　2）医療保障制度の構造と体系 3）健康保険と国民健康保険　4）高齢者医療制度 5）保険診療のしくみ　6）公費負担医療 7）国民医療費 4．介護保障 1）介護保険制度創設の背景と介護保障の歴史　2）介護保険制度の概要 3）介護保険制度の課題と展望 5．所得保障 1）所得保障制度のしくみ　2）年金保険制度 3）社会手当　4）労働保険制度 6．公的扶助 1）貧困・低所得問題と公的扶助制度　2）生活保護制度のしくみ 3）低所得層対策　4）近年の動向 7．社会福祉の分野とサービス 1）高齢者福祉　2）障害者福祉　3）児童家庭福祉 8．社会福祉実践と医療・看護 1）社会福祉援助とは　2）個別援助技術　3）集団援助技術 4）間接援助技術と関連援助技術　5）社会福祉援助の検討課題 6）連携の重要性　7）社会福祉実践と医療・看護との連携　8）連携の場面とその方法 9．社会福祉の歴史 1）福祉史の枠組み　2）福祉史の3段階　3）前近代の救済の諸相 4）近代の救済の諸相　5）現代社会への構造変化と生活支援　6）戦後の社会福祉の再生	①
	1．社会福祉法人旭川荘について（見学実習を変更） 1）障害のある人とのコミュニケーション講義（2h） 2）社会福祉法人旭川荘について、事前学習およびDVD視聴後の共有（4h） 3）障害をもちながら生活している方の理解と看護の役割について、GW・発表と共有（4h）	③ ②
必携文献・参考文献	1）福田素生他：系統看護学講座　専門基礎分野　健康支援と社会保障制度〔3〕社会保障・社会福祉，医学書院，2022. 2）社会保障入門編集委員会監修：社会保障入門，中央法規出版，2022. 3）厚生統計協会編：厚生の指標　国民衛生の動
成績評価方法	①終了試験、②レポートで評価し、それぞれ6割以上を合格とする。
備考	

出席自己チェック欄 40h																	
	①30	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22	24	26	28	30	試験（1）
	②③10	2	4	6	8	10											